

森・里・川・海的环境保全の 機運醸成と森林環境教育



◆森・里・川・海のつながり学習会

駿河湾の生態系がもたらす恵みを後世に継承するためには、海・里・川・海的环境の保全が重要であることから、県は、令和4年度から親子等を対象に、学習会を開催しています。

令和5年度は、安倍川流域の森・里・川・海各フィールドにおいて実験や観察を行い、海の世界連鎖の基礎である植物プランクトンが栄養としている窒素やリンの重要性を体感的に学びました。

学習会での実験方法等は、地域の保全活動に活用できるよう、映像コンテンツにまとめ、環境学習ポータルサイト「ふじのくに環境ラボ」で公開しています。



河川水の栄養量調査



ふじのくに
環境ラボ

◆漁業と林業が連携した「豊かな森・海づくり」

田子の浦漁業協同組合からの「豊かな海づくりのために、森づくり活動をしたい」との呼びかけを契機として、上流部の森林を整備する富士森林組合との交流が続いています。



漁業及び林業関係者の意見交換会

森や田畑などから海に流れ込む栄養が、海の生態系に影響していることを踏まえ、森・里・川・海的环境保全に関する普及啓発を行っています。

また、林業のプロフェッショナルの協力のもと、小学校での出前授業を実施するなど、森林環境教育を推進しています。

令和5年12月には、田子の浦漁協においてシラス漁の説明や、漁港に流れ着いた流木等の堆積物の確認が行われました。林業関係者からは、堆積している流木は台風等により河川周辺の木が流出することが主な原因であり、林業の伐倒木が原因ではないことを説明し、漁業関係者との相互理解を深めました。

今後も豊かな森・海づくりを進めるため、連携して活動を続けていくことを確認しました。

◆「森林ESD」出前授業の実施

森林ESDとは、森林への理解を深め、持続可能な社会を実現するために必要なことについて考え、行動する力をはぐくむ教育のことです。

小学校5年生は、社会科の授業で森林について初めて学びます。この時、楽しみながら深く学んでもらえるよう、公益財団法人静岡県グリーンバンクは、カッコいい装備の林業のプロとインタープリターによる、「森林ESD」出前授業を、12校（富士宮市、静岡市、袋井市他）で実施しました。

子どもたちは、「森林を守るために、自分ができることって何だろう？」など、身近な環境や社会について、考える姿が見られました。

また、先生からは、「教えることがギュッとまとめられていて、今後の授業に役立つ」との感想をいただきました。



林業のプロにたくさん質問しました
（富士宮市立富丘小学校）

森林との共生に取り組む人



左：和馬さん 右：敬次さん

地域をリードする親子二人三脚の林業経営者

岩本 敬次さん・和馬さん（浜松市天竜区）

自己所有林に加え、所有者がその地域に居住していない不在村地主の森林をとりまとめ、車両系による低コスト施業に取り組んでいます。施業を行う森林の多くでFSC認証を取得し、環境に配慮した施業を実践しています。

こうした取組が高く評価され、父の敬次さんは、令和5年度第62回全国林業経営推奨行事において、農林水産大臣賞を受賞されました。

一緒に森林経営に携わる息子の和馬さんは、地域をまとめる若手林業家として、令和5年度に静岡県青年林業士に認定されました。

卓越した技術で最高級の「天白冬菇」を生産

朝香 博典さん（伊豆市）

20代から約30年、伝統的な原木しいたけ栽培技術を継承しつつ、栽培環境の改善や乾燥技術の向上を積み重ね、希少価値が高い最高級品「天白冬菇（てんぱくどんこ）」を生産しています。

全国乾椎茸品評会で農林水産大臣賞を8回、特に令和に入り4回連続で受賞し、その技術と品質が高く評価され、令和5年度農林水産祭の林産部門において、内閣総理大臣を受賞されました。地域では頼れるリーダーとして、伊豆の原木しいたけ生産を牽引しています。



里山と子どもたちをつなぐ環境教育の推進役

榛原ふるさとの森～だ～ず（牧之原市）

県有自然ふれあい施設「榛原ふるさとの森」で、長年、里山整備を行いながら、次代を担う子供たちを対象にした環境教育に力を入れています。

夏にはカエルやカニを探したり、秋は「落ち葉のシャワー」で遊んだり、季節ごとに創意工夫されたプログラムは、小学校や幼稚園の子どもたちに大好評です。

こうした活動が高く評価され、令和5年度「ふれあいの森林づくり表彰」において、国土緑化推進機構会長賞を受賞されました。



Facebook で紹介
森林との共生に向けた取組

Facebook →
「ふじのくに森林の都しずおか」



県は、森林・林業に関心を持つ皆様と、Facebook「ふじのくに森林の都しずおか」でつながっています。令和5年度は、県内各地で行われている森林との共生に向けた取組に関する275件の記事を発信し、閲覧数は約6万件となりました。

○令和5年度に発信した主な記事

発信日	記事名	発信者
4月 3日	令和5年度春の森づくり県民大作戦を開催中	環境ふれあい課
19日	「遊木の森」サポーターズクラブ全体会を開催	中部農林事務所
5月 16日	静岡市林業研究会が林業体験ブースを出展	中部農林事務所
20日	森の力再生事業実施箇所の現在	東部農林事務所
6月 1日	めくり上げ侵入を防ぐ新たな方法で防獣ネット柵を設置	天竜農林局
27日	治山パトロールで治山施設を点検	富士農林事務所
7月 7日	森林・林業研究センターで「木っておもしろい展」を開催	森林・林業研究センター
12日	「1日子どもエコレンジャー体験会」参加者募集中	自然保護課
8月 21日	賀茂農林事務所管内における QGIS 普及のキーマン紹介	賀茂農林事務所
31日	ツリークライミングで枯れマツを伐採	志太榛原農林事務所
9月 2日	西部地域森づくり連絡会を開催	西部農林事務所
13日	森林・林業先端技術セミナー開催中	森林計画課
10月 6日	林業経営体若手職員研修を開催	天竜農林局
16日	第63回治山研究発表会で、静岡県職員の発表が優秀賞を受賞	森林保全課
11月 19日	ふじのくに木使い建築カレッジ修了講座を開催	林業振興課
25日	森林・林業研究センターの職員が「森林遺伝育種学会賞」を受賞	森林・林業研究センター
12月 4日	森林クラウド公開システム運用開始のお知らせ	森林計画課
5日	静岡市立両河内小学校3,5年生が間伐を体験	中部農林事務所
1月 12日	C S立体図を公開しました	建設政策課
12日	藤枝順心高等学校附属幼稚園の園児達がスキヤ竹を使った遊びなどを体験	志太榛原農林事務所
2月 15日	ツリークライミングや丸太をノコギリで切る体験会を開催	賀茂農林事務所
21日	「静岡SDGs万博2024」で森の力再生事業をPRします	森林計画課
3月 12日	屋外での火の取扱いは気をつけて！	森林整備課
14日	ふじのくに森の防潮堤づくり(シェア投稿)	中遠農林事務所

○注目を集めた投稿の一部を御紹介します

✓静岡市林業研究会が林業体験ブースを出展（5月16日）

静岡市林業研究会は、5月に静岡市の駿府城公園で開催された「シズオカピクニックガーデン」に林業体験のブースを出展し、家族連れを中心に、薪割りやチェーンソーでの丸太切りを体験しました。

また、隣接するブースでは静岡市が木製玩具を体験するコーナーを出展し、こちらも多くの子どもたちで賑わいました。



薪割り体験



木製玩具体験

✓治山パトロールで治山施設を点検（6月27日）

富士農林事務所森林整備課は、6月1日から15日までの期間に「県民の生命、財産の安全確保及び県土の保全を図り、山地災害を防止すること」を目的として、7箇所42の治山施設を点検しました。

パトロールでは、施設に異常がないかの確認や、地域住民からの情報聴取、災害及び防災に対する普及啓発を実施しました。



治山施設の点検



地域住民への普及啓発

✓CS立体図を公開しました（1月12日）

県は、航空レーザ測量により3次元点群データを取得し、オープンデータ化する「VIRTUAL SHIZUOKA」プロジェクトに取り組んでおり、令和5年12月には、3次元点群データを基に作成した「CS立体図」を「G空間情報センター」で公開しました。

また、「ふじのくにオープンデータカタログ」では、平成27年度以降の森林簿・森林計画図等を公開しており、森林調査等に活用いただいています。



「VIRTUAL SHIZUOKA」CS立体図イメージ図



ふじのくにオープンデータカタログ

✓ツリークライミングや丸太をノコギリで切る体験会を開催（2月15日）

松崎町にある牛原山県営林で、森に親しみ、ふれあうイベントとして、ツリークライミングや丸太をノコギリで切る体験会を開催しました。

参加者はインストラクターの話をよく聞いて体験を行い、普段見ることができない樹の上からの景色に感激したり、スギの丸太をノコギリで切る達成感を味わったりすることができました。



ツリークライミング



丸太切り体験

3 令和5年度の各施策の評価と令和6年度の主な施策

1ページのPOCAサイクルに基づき評価・改善 **森林審議会用（未定稿）**

「静岡県東部地域デジタル林業推進コンソーシアム」による新たなデジタル技術の活用や、公共部門の県産材利用量の増加など、森林資源の循環利用が進むとともに、路網延長や山地災害危険地区の整備地区数の増加など、森林の適正な整備・保全が着実に進みました。

また、森づくり活動参加者の回復や、しずおか未来の森サポーター企業の増加など、森に親しむ機会が充実するとともに、需要の高まりに呼応した木質バイオマス用材生産量の増加など、カーボンニュートラルの取組も進んでおり、4方向の施策展開による「森林との共生」の取組が広がっています。

森林資源の循環利用による「森林との共生」

方向1 森林資源の循環利用を担う林業・木材産業によるグリーン成長

(1) 林業イノベーションの推進による県産材の安定供給

指 標	実 績					目標
	R元	R2	R3	R4	R5	R5 (R4)
木材生産量 (万m ³)	47.6	42.1	45.2	45.9	45.1	50
ふじのくに林業イノベーションフォーラム参加者数 (者)	-	37	61	62	75	75
森林経営計画認定面積 (ha)	82,806	83,993	84,023	85,251	8月公表予定	93,600 (90,400)
効率的な森林整備を実現する路網の延長 (累計) (km)	4,680	4,930	5,196	5,413	9月公表予定	5,470 (5,250)
再造林面積 (ha)	158*	236	213	196	8月公表予定	500 (500)
エリートツリー種子の生産量 (万本分)	16.1	25.6	22.8	20.4	1.9	61
世界基準の認証取得森林面積 (ha)	71,059	72,536	73,651	74,804	8月公表予定	77,000 (75,500)

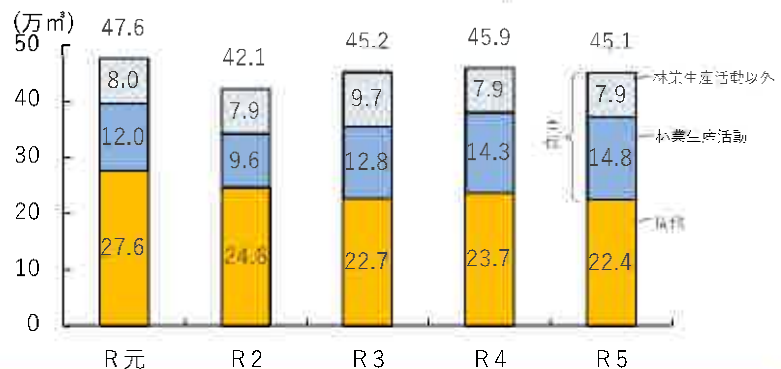
※再造林面積のR元は国有林除き

木材生産量 (R5)

45.1 万m³ [目標 50 万m³]

※目標の考え方

森林資源の循環利用が可能なスギ・ヒノキの人工林の成長量に相当し、かつ県内の県産材の木材需要に供給していく木材生産量を算定



令和5年度の評価

「木材生産量」は、住宅需要の減退に伴う製材・合板工場の減産、林業経営体の生産調整等が影響し、目標には届きませんでした。今後更に需要が増える木材チップの供給や木材需要変動に対応できる安定供給体制を構築する必要があります。

主伐面積と「再造林面積」はともに横ばい傾向で、令和4年度の再造林率は約6割となっており、採算性や獣害への不安を解消するため、獣害対策を含めた主伐・再造林の低コスト化が必要です。

低コスト再造林や花粉対策に必要となる「エリートツリー種子の生産量」は、生産技術の現場実装が不十分であるため大きく落ち込んでおり、安定供給に向けた技術の改善や定着が求められています。

「ふじのくに林業イノベーションフォーラム参加者数」は目標を達成し、東部地域では、木材生産から流通・加工が一体となってデジタル技術等で連携し、効率化しようとする取組が始まりました。

令和6年度の主な施策

※【新規】、【拡充】の表記がない項目は昨年度からの継続

施策	主な取組
<p>林業イノベーションの推進による県産材の安定供給</p>	<p>① 林業イノベーション×DXの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林情報を一元管理し、林業経営体等の利用促進を図るため、森林クラウドの本格運用や、3次元点群データの解析による高精度森林情報のオープンデータ化に取り組めます。【新規】 ・デジタル技術を導入し、業務効率化等に取り組む林業経営体を支援します。 <p>② 県産材の効率的な供給・流通体制の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林経営計画の作成や林内路網の効率的な配置、高性能林業機械の導入、木材生産計画の随時の見直しによる需要に応じた生産の最適化を支援します。 ・意欲的に木材生産を行う林業経営体に取り組む集約化の拠点づくりによる施業地の確保を支援します。【新規】 ・静岡県東部地域デジタル林業推進コンソーシアムが取り組む、伊豆市大平の中間土場を核としたデジタル林業戦略拠点構築を支援し、その成果を県内中西部にも拡大します。 <p>③ 収益性の高い主伐・再造林の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木材生産団地において、主伐適地の抽出や収益性が高まる作業システムの提案を行い、大型トラックが通行可能な作業道や架線集材施設の整備を支援します。 ・伐採から造林までを一貫して行う低コスト作業システムを普及し、主伐時に生じる未利用木材をチップ用材として搬出する取組や、再造林に必要な獣害対策の低コスト化を支援します。【拡充】 ・花粉発生源対策として、スギ人工林の伐採・植替えを促進します。【新規】 ・エリートツリー種子の安定供給に向けて、母樹の更新やヒノキ種子の安定生産などの閉鎖型採種園による種子生産技術を確立する研究支援を継続し、県育種場における技術の確実な実装と生産管理の徹底を図ります。 <p>④ 森林認証材の供給拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木材生産団地を供給拠点と位置付け、熟度の高い木材生産計画の作成、路網や架線などの生産基盤整備を支援することで、森林認証材の供給拡大を図ります。



コンソーシアムによる丸太生産情報をデータ化するシステムの開発



高性能林業機械による木材生産(西伊豆町)